☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

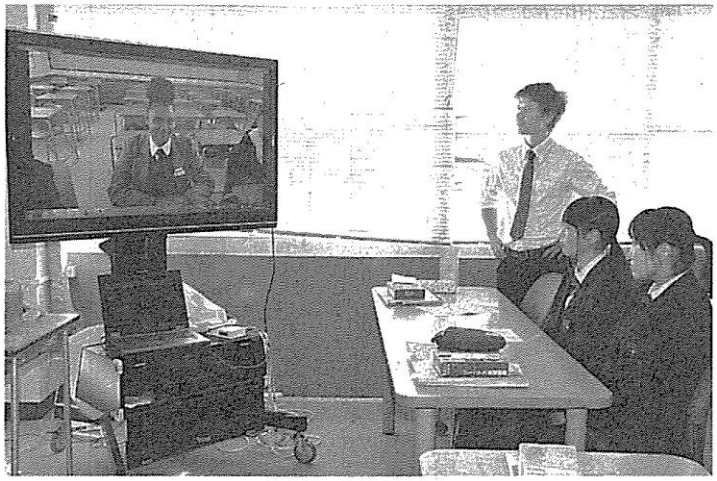
報道で見る氷上西高　２０１９

丹波新聞　令和元年１１月２４日（日）

南アの異文化感じる

氷上西高の英語授業で　文通・動画の交換で

氷上西高校で21日、英語のアドバンスクラスで学ぶ3年生と、南アフリカのハイスクールの生徒との交流授業があった。南アから届いた、生徒の学校紹介の動画を見て、文化の違いを感じると共に、生きた英語に触れた。（足立智和）



南アから届いたビデオレターを見る生徒とジョビさん＝青垣町佐治で

同校外国語指導助手のヘンリックセン・ジョバルド（ジョビ）さん（30）が、友人教師が勤務するケープタウンのエイペックスハイスクールとの交流を橋渡し。昨年、手紙のやりとりから始め、今年は電子メールを送り合い、エイペックス校宛てに氷上西高校を英語で紹介する手作りのビデオレターを送った。

この日鑑賞したのはその返答。母校の校訓や「上履きははかない」など日本と南アの学校のルールの違いなどを日本の中学3年生相当の女子生徒4人が英語で説明した。普段通り滑らかに話す女子生徒の口調が早口に聞こえ、西高の生徒たちは、集中して彼女たちの説明に耳を傾けていた。

足立佳生（けい）さんは、「文化の違いを実感した」と言い、手紙のやり取りで「あなたが何を言いたいのか分からない、と書かれたこともあった。彼女たちが書く英語表現はかっこ良く、もっと勉強したいと思った」と話していた。

手紙の交換では家族や生活のことを紹介しあった。同校が送ったビデオレターでは、下履きと上履きの使い分け、授業の始めと終わりの「起立、礼」のあいさつ、文字を縦に書く国語の授業のようすなど、いずれも南アにはない日本の学校の文化を紹介した。

ジョビさんは、「互いのリアルな日常を知り、違いや同じところを考えてほしい。英語は生きた言葉で、学校のものでも、教科書の中のものでもないことを感じ、英語を学ぶ意欲にしてもらえれば」と話していた。